

## 第 239 回 FS 委員会議事録

### 1) FS-1228-13 点検用技術研さん用の鋼I桁に疲労き裂を導入する試み

山田健太郎(中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋)

老齢化した道路橋の点検技術の向上を目的として、撤去された実橋の部材を集めて展示し、点検員の研さんに用いる施設(ニュー・ブリッジ)が名古屋大学の構内に設置された。鋼橋では、腐食と疲労が問題となるが、実橋の疲労き裂を見たことがない点検員に疲労き裂を見せて点検技術を向上させるため、実際の鋼橋の溶接継手に疲労き裂を導入した。疲労き裂の導入には、名古屋大学で開発した板曲げ試験機で用いた偏心おもり付きのモータ(ユーラス)を用いた。想定外の疲労き裂も含めて、約20か所に疲労き裂を導入することができた。

き裂導入部の防蝕方法、ユーラスによる荷重制御試験の可否、軸力試験の可否、振動による試験体の固縛方法等について質疑があった。